



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 1 0 月 7 日 (火)

発行 館長 加 藤 智 一

温暖化によるサンゴ礁の消滅

気温が現在より 2℃上昇すると、2100 年までにほぼすべてのサンゴ礁が成長不能になるとする研究結果が、この度、筑波大学の国際研究グループによって報告されました。この研究グループは、アメリカのフロリダ、メキシコ、ベネズエラ他 400 か所のサンゴ礁の現状と過去の化石サンゴ礁の堆積記録を組み合わせ、成長の様子を分析し、地球温暖化によりサンゴ礁の未来に対する懸念が高まっていると警鐘を鳴らしています。

サンゴ礁は熱帯・亜熱帯の浅海域に広がる生態系で、豊かな海洋生物の住処であると同時に、沿岸地域の防波堤としても機能しています。波のエネルギーの最大 97%を吸収するとも言われ、洪水や高潮の被害を軽減する自然の防壁として、年間 30 億ドル以上の経済効果をもたらしていると推定されています。

しかし、近年の気候変動により、海水温の上昇、海洋酸性化、水質の悪化などが進行し、サンゴの白化現象や死滅が世界各地で報告されています。特に西大西洋地域では、ミドリイシ属のサンゴ*が壊滅的な打撃を受けており、サンゴ礁の成長力が著しく低下していることが問題視されています。

2025 年に発表された、この国際研究チームの調査によると、熱帯西大西洋の 400 か所以上のサンゴ礁を対象に、過去の化石データと現在の生態データを組み合わせ、分析した結果、気温が現在より 2℃上昇すると、2100 年までに 99%以上のサンゴ礁が成長不能になると予測しています。これは、サンゴ礁の成長速度が海面上昇の速度を下回り、結果として礁上の水深が 0.7～1.2 メートル増加することで、沿岸の浸水リスクが大幅に高まることを意味しています。

サンゴ礁の成長が止まるということは、単に美しい海の景観が失われるだけではありません。サンゴ礁に依存する漁業資源の減少、生物多様性の喪失、観光業への打撃、そして沿岸住民の生活基盤の脅威など、多方面にわたる影響が懸念されます。特に島嶼国や低地沿岸地域では、サンゴ礁の衰退が直接的な生存リスクに繋がる可能性もあります。

このような事態を回避するためには、地球温暖化を現在より 2℃未満に抑えることが不可欠です。国際的な温室効果ガス排出削減の取り組みに加え、地域レベルでの水質改善、過剰漁業の抑制、サンゴ礁の

修復活動など、多角的な対策が求められています。また、サンゴ礁の成長を支える環境条件の維持には、陸域からの汚染流入の防止や持続可能な観光・漁業の推進も重要です。

山形のような内陸地域に住む私たちにとっても、これは遠い海の話ではありません。気候変動は地域を問わず、農業、水資源、食文化、そして地域経済に影響を及ぼします。サンゴ礁の危機は、地球全体の環境バランスの崩壊を示す警鐘であり、私たち一人ひとりが持続可能な社会の構築に向けて行動する必要があるのです。



※ミドリイシ属のサンゴは、その多様な種類と生態に特徴があります。特に、ミドリイシ属はその種多様性で知られ、約 110 種が正式に記載されています。これらのサンゴは、沖縄の海でよく見られ、サンゴ礁を形成する重要な役割を果たしています。

☆彡 やる気に係る格言

- ・やらない人は言い訳を考える
- ・やれる人は出来る理由を考える
- ・やる気スイッチ入っても

ブレーカーは大丈夫？

